

令和8年度 専攻科学生募集要項 (入学案内を含む)



学力による選抜

後 期 学 力	出 願 期 間	令和7年10月14日(火)～10月17日(金)
	検 査 日	令和7年11月7日(金)
	合 格 者 発 表	令和7年11月14日(金)
	入学確約書提出期限	令和7年11月21日(金)
	※ 追試験の詳細は6頁をご参照ください。	

※ 有明高专以外からの受験希望者は、専攻科修了要件や学位申請要件等を確認するため、10月10日(金)までに下記電話番号へ問い合わせください。

【入試に関する問い合わせ先】

独立行政法人国立高等専門学校機構 有明工業高等専門学校 学生課教務係

〒836-8585 福岡県大牟田市東萩尾町150

電 話 0944-53-8622 FAX 0944-53-8862

メール gakkyo-staff@

(迷惑メール対策のため、メールアドレスの末尾 [ml.ariake-nct.ac.jp] を省略しています。)

ホームページ <https://www.ariake-nct.ac.jp/admissions/advanced-courses>

目 次

アドミッションポリシー	1
求める学生像	1
育成しようとする技術者像	2
募集定員	2
選抜方法	2
学力による選抜【後期】	3
1 出願資格	3
2 出願手続	3
3 選抜の方法	5
4 選抜結果の発表	5
5 入学確約書の提出	6
6 入学手続き	6
学力による選抜（追試験）	6
個人情報保護について	6
入学者選抜における障害等を理由とした合理的配慮の提供について	7
入学案内	9
教育理念と学習・教育到達目標	9
教育課程	10
学位の取得	14
修了生の主な進路〈令和6年3月〉	14
入学手続き時に要する諸経費	14
高等教育の「修学支援新制度」	14
入学料免除・徴収猶予制度	14
授業料免除制度	14
奨学金制度	14
学生寮	15
入学検定料をゆうちょ銀行から振り込む場合の注意点	16

アドミッションポリシー（学生受け入れ方針）

高専の専攻科は、高専 5 年間の教育課程の上に、より高度な専門知識と技術を教授し、創造的な研究開発や先端技術に対応できる人材を育成するために設けられた 2 年制の課程です。

専攻科の課程を修了すれば、大学評価・学位授与機構の審査を受けて、「学士」の学位を取得できます。本校専攻科には、生産情報システム工学専攻、応用物質工学専攻、建築学専攻の 3 専攻があります。

求める学生像

本校専攻科は、豊かな教養と幅広い専門知識、学際的・複合的視野と倫理観、創造性と実践力を身につけた、ものづくりのための高度な実践的技術者を育成することを目指しています。

そのため、本専攻科では次のような人の入学を歓迎します。

- 1) 幅広い工学に関する基礎知識と主体性を身につけた人
- 2) 専門工学に関する知識と創造性に富み、実践力を身につけた人
- 3) 自己啓発・向上能力に富み、技術を通じ社会の発展に寄与できる人
- 4) 多様な価値観を理解し、学際的な分野で活躍できる人
- 5) 国際社会で活躍できる広い視野と教養を備えた人

なお、実社会で活躍しながらキャリアアップしたいと考えている人なども歓迎します。

《入学者選抜の基本方針》

入学者の選抜は、「推薦による選抜」、「推薦による選抜(社会人)」及び「学力による選抜」の3つの方法で行います。

◇ 推薦選抜

推薦による選抜では、高等専門学校卒業見込みで、学業成績及び人物が優れていると認められる人で、本専攻科への適性を有し、合格した場合は必ず入学する人を選抜します。

推薦による選抜は、在籍する学校長から提出された推薦書及び調査書、志望調書の内容及び TOEIC スコアを総合した書類選抜で行います。

専門及び学際分野の基礎知識については調査書、国際社会で活躍できる素養を TOEIC スコア及び調査書と志望調書、主体性や実践力、社会の発展に対する意欲などを推薦書、志望調書で総合的に評価します。

◇ 推薦選抜(社会人)

推薦による選抜(社会人)では、出願時において企業等に 1 年以上在籍した経験があり、所属する企業等の長又は出身学校長が、勤務成績又は学業成績、人物ともに優れていると認め推薦する人で、本専攻科への適性を有し、合格した場合は必ず入学する人を選抜します。

推薦による選抜(社会人)は、所属する企業等の長又は出身学校長から提出された推薦書、調査書及び志望調書の内容を総合して書類選抜で行います。

専門及び学際分野の基礎知識については調査書、国際社会で活躍できる素養を TOEIC スコア及び調査書と志望調書、主体性や実践力、社会の発展に対する意欲などを推薦書、志望調書で総合的に評価します。

◇ 学力選抜

学力検査による選抜では、本専攻科での勉学に必要な素養と基礎学力及び専門基礎知識を備えた人を選抜します。

学力選抜は、学力検査の成績、出身(在籍)学校長から提出された調査書及び志望調書を総合して行います。

学力検査は筆記試験で、英語(TOEIC 換算)、数学及び専門科目です。

専門及び学際分野の基礎知識については調査書及び専門科目の筆記試験、国際社会で活躍できる素養を英語及び数学の筆記試験並びに調査書と志望調書、主体性や実践力、社会の発展に対する意欲などを志望調書で総合的に評価します。

育成しようとする技術者像

本校専攻科では、工業生産活動(機械、電気、電子情報、物質、建築)における諸課題を自ら発掘し、多角的な視点に立って諸問題を解決するため、工学の専門知識と複合的・学際的知識を総合した判断力と問題解決能力を備えた高度な実践的技術者の育成を目指しています。

さらにはこれらの教育を通じて、人々に優しく、自然と共存できる技術の開発に携わり、環境問題・食糧問題・エネルギー問題など今日的な諸課題について柔軟に対応できる技術者を育成することを目的としています。

このような技術者を育成するために、各専攻では次のような人の入学を歓迎します。

【生産情報システム工学専攻】

生産情報システム工学専攻では、本科 5 年間で修得した各々の専門分野をさらに深く勉強します。

それに加えて、広く工学分野一般についても見識を深め、複眼的な見方のできる技術者を目指します。

そのため、本専攻では次のような人の入学を歓迎します。

- 1) 機械・電気・情報いずれかの専門分野をすでに修め、さらに深く専門分野を勉強する意欲がある人
- 2) 工学の広い分野に興味があり、学際的な領域についても勉強する意欲がある人
- 3) 与えられたテーマの中で、自分の研究を自ら計画し実践していく意欲がある人

【応用物質工学専攻】

応用物質工学専攻では、高専本科 5 年間の教育課程で修得した基礎学力を基盤として、化学技術やバイオ関連技術の進展に対応しうる高度な知識と技術を有する技術者の養成を目指しています。

そのため、本専攻では次のような人の入学を歓迎します。

- 1) 化学や生物などの自然科学について基本の知識をもち、それを身近な問題に応用できる人
- 2) 学際領域にわたる幅広い専門知識を修得し、高い独創力や解析能力を身につける意欲がある人
- 3) グローバルな視点で物事を考えることができ、倫理観がある人

【建築学専攻】

建築学専攻では、本科で修得した一般及び専門の基礎学力を土台として、創造性に富み、かつ実践的技術力の高い建築技術者の育成を目指しています。

そのため、本専攻では次のような人の入学を歓迎します。

- 1) 豊かな生活空間の創造に意欲的に取り組める人
- 2) 建築の計画、構造、設備などの基礎的知識を修得している人
- 3) 学際的な幅広い専門知識と設計演習や実験・実習を通した実践的技術を修得したいと考えている人

募集定員

建 築 学 専 攻
3 名

選抜方法

入学者の選抜は、次の方法で行います。

選抜区分		検査日
学力による選抜	後 期	令和 7 年 11 月 7 日 (金)

学力による選抜【後期】

1 出願資格

次のいずれかに該当する者。

- ① 高等専門学校を卒業した者及び令和 8 年 3 月卒業見込みの者
- ② 短期大学を卒業した者及び令和 8 年 3 月卒業見込みの者
- ③ 高等学校（中等教育学校の後期課程及び特別支援学校を含む。）の専攻科の課程を修了した者のうち学校教育法第 58 条の 2 の規定により大学に編入学することができるもの
- ④ 専修学校の専門課程を修了した者のうち学校教育法第 132 条の規定により大学に編入学することができるもの及び令和 8 年 3 月までに同要件を満たす見込みのもの
- ⑤ 外国において、学校教育における 14 年の課程を修了した者及び令和 8 年 3 月までに修了見込みの者
- ⑥ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における 14 年の課程を修了した者及び令和 8 年 3 月までに修了見込みの者
- ⑦ 我が国において、外国の短期大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における 14 年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び令和 8 年 3 月までに修了見込みの者
- ⑧ その他、高等専門学校を卒業した者と同等以上の学力があると学校長が認めた者

2 出願手続

(1) 願書受付

期 間	令和 7 年 10 月 14 日（火）から令和 7 年 10 月 17 日（金）まで。 （郵送の場合も、10 月 17 日（金）までに必着のこと。） ※ 専攻科修了要件や学位申請要件等を確認するため、有明高専以外からの受験希望者は、令和 7 年 10 月 1 日（水）までに本校学生課教務係にお問い合わせください。
時 間	9 時 00 分から 16 時 00 分まで
場 所	〒836-8585 大牟田市東萩尾町 150 有明工業高等専門学校 学生課教務係

(2) 出願の方法等

- ① 志願者は、出願に必要な書類等を整えて、提出してください。
- ② 郵送の場合は、レターパックライトを使用し、「品名」欄に「専攻科出願書類」と明記してください。

(3) 出願に必要な書類等

①入学願書	本校所定の用紙に必要事項を記入してください。
②志望調書	
③写真票 受験票	写真は、出願 3 ヶ月以内に撮影した正面・上半身脱帽のもの（縦 40mm×横 30mm）とし、所定の位置に貼付してください。

④調査書	○ 本校所定の用紙により、出身（在籍）学校長又は学長が作成し、厳封したものを提出してください。 ○ 出願資格④により出願する場合は、次の証明書をあわせて提出してください。 （ア）専修学校が発行する修業年限 2 年以上で、かつ、修了に必要な総授業時間数が 1700 時間以上の専門課程を修了したこと、又は修了する見込みであることを証明する書類 （イ）専修学校の専門課程の学科の分野や履修内容が確認できる書類 ○ 出願資格⑤により出願する場合は、出願資格にかかる最終学校の成績証明書を調査書に代えて提出してください。
⑤出願承諾書	企業等に在職のまま入学を希望する志願者のみ提出してください。 本校所定の用紙により、所属長が作成したものを提出してください。
⑥入学検定料	16,500 円。 ・銀行から振り込む場合 本校所定の「入学検定料振込依頼書」により志願者本人の氏名で振込の後、「検定料振込証明書（学校提出用）」を「入学検定料振込証明書」貼付欄に貼付けてください。 ・ゆうちょ銀行から振り込む場合 21 頁に記載の「入学検定料をゆうちょ銀行から振り込む場合の注意点」を参照のうえ振込のあと、「振込依頼書（兼振替払出請求書）【お客様控え】」を「入学検定料振込証明書」貼付欄に貼付けてください。
⑦TOEIC スコア	「検査日の属する年度」の 2 年前となる年度の 4 月 1 日（令和 5 年 4 月 1 日）以降に受験した TOEIC 公開テスト又は TOEIC IP テストの TOEIC スコア及びその取得時期を証明する「公式認定証」又は「個人成績表」の写しを提出してください。
⑧その他	現に日本国内に在住する外国人は、市区町村が発行する「住民票の写し（コピー不可）」を提出してください。

(4) 出願に関する注意事項

- ①不備のある出願書類は受け付けません。
 - ②提出した出願書類に虚偽の記載があった場合は、入学後であっても入学を取り消すことがあります。
 - ③出願書類提出後の記載事項の変更は認めません。
 - ④受理した出願書類及び検定料は、いかなる理由があっても返還しません。
- ただし、次の要件のいずれかに該当する場合は、納入済みの入学検定料を返還します。
- 1) 入学検定料を振込んだが本校に出願しなかった場合。
（出願書類を提出しなかった又は出願を受理されなかった）
 - 2) 入学検定料を誤って二重に振込んだ場合。

上記の入学検定料返還要件に該当する場合は、別紙様式により必要事項を記入後、出願予定の選抜試験の願書受付期間終了後に学生課教務係まで速やかに連絡願います。

連絡先: 〒836-8585 大牟田市東萩尾町 150
有明工業高等専門学校 学生課教務係
TEL : 0944-53-8622 FAX : 0944-53-8862

3 選抜の方法

- (1) 入学者の選抜は、学力検査（英語については TOEIC スコアを 100 点に換算）、の結果で行います。

英語	数学	専門科目	合計
100 点	100 点	200 点	400 点

- (2) 選抜日時

期日	科目等	時間
令和 7 年 11 月 7 日（金）	数 学	9 時 20 分～10 時 20 分
	専門科目	10 時 40 分～12 時 10 分

（注）8 時 50 分までに本校学生課前に集合してください。

追試験がある場合は、以下の日時で実施します。

期日	科目等	時間
令和 7 年 11 月 21 日（金）	数 学	9 時 20 分～10 時 20 分
	専門科目	10 時 40 分～12 時 10 分

（注）8 時 50 分までに本校学生課前に集合してください。

- (3) 選抜場所

有明工業高等専門学校

- (4) 学力検査科目及び出題の範囲

検査科目		出題の範囲
英 語		出願時に提出された証明に基づく TOEIC スコアの換算得点※を用いる
数 学		数学の基礎分野、微分積分（偏微分、2 重積分、微分方程式を含む）、線形代数
専門科目	建築学専攻	【必須】 「建築設計」、「構造力学」の 2 科目

※ TOEIC スコアの換算式は以下のとおりです。（上限は 100 点、小数点以下は四捨五入）
英語換算式 入試得点＝TOEIC スコア×0.15（なお、TOEIC スコア 300 点未満を 0 点とする。）

- (5) 注意事項

検査当日は、携帯電話・スマートフォン・タブレット端末等の電源は切って、カバンの中にしまっておいて受験してください。

また、腕時計型や眼鏡型などのウェアラブル端末も身につけておくことはできません。

4 選抜結果の発表

- (1) 発表日時

令和 7 年 11 月 14 日（金） 10 時 00 分

※ 追試験の発表日時は以下のとおりです。

令和 7 年 11 月 28 日（金） 10 時 00 分

- (2) 発表方法

本校ホームページ（<https://www.ariake-nct.ac.jp/>）で合格者の受験番号を発表するとともに、当日発送の文書により合格者へ通知します。

（合格者の受験番号の本校学内掲示は行いません。また、電話等による合否の問い合わせには

一切応じません。)

5 入学確約書の提出

合格通知を受けた人は、令和 7 年 11 月 21 日（金）までに「入学確約書」を提出してください。
期日までに「入学確約書」が提出されない場合は、入学の意思がないものとして処理します。

6 入学手続き

入学の手続きは、令和 8 年 2 月～3 月に行います。入学確約書を提出した人に別途通知します。

学力による選抜（追試験）

後期学力選抜の本試験を受験できなかった場合、次に掲げる者を対象に追試験を実施します。

1. 学校保健安全法施行規則（昭和 33 年文部省令第 18 号）第十八条に定める感染症に罹患、又は罹患している疑いがあり、本試験を受験できない者
2. その他、受験者自身の責めに帰することができない理由で本試験を受験できず、追試験の受験を申請した者で、校長がその申請を認めた者

本試験を受験できないと分かった時点で、必ず、下記問い合わせ先に連絡してください。

本試験当日に発熱、咳等の症状があり、感染症等に罹患している疑いがある場合は、検査会場には来ずに、検査開始時間前までに、下記問い合わせ先に連絡してください。

なお、追試験を受験する場合は、当日若しくは後日、必要に応じて医療機関等を受診し、下記問い合わせ先に、追試験受験申請書を提出してください。

追試験受験申請書の様式は、本校ホームページ (<https://www.ariake-nct.ac.jp/>) の「入学案内＞専攻科入学試験」に掲載しています。

問い合わせ先

〒836-8585

福岡県大牟田市東萩尾町 150

有明工業高等専門学校 学生課 教務係

Tel : 0944-53-8622 Fax : 0944-53-8862

e-mail : gakkyo-staff@

(迷惑メール対策のため、メールアドレスの末尾 [ml.ariake-nct.ac.jp] を省略しています。)

個人情報の保護について

入学志願者から提出された関係書類に記載されている情報及び選抜に用いた成績・評価など、取得した個人情報は、入学者選抜の資料としての利用及び次の目的以外には使用しません。

- (1) 入学後の教育・指導、緊急連絡
- (2) 入学料・授業料の免除申請の審査
- (3) 奨学金申請の審査
- (4) 本校及び国立高等専門学校全体の教育制度・入学者選抜制度の改善のための調査・研究

入学者選抜における障害等を理由とした合理的配慮の提供について

有明工業高等専門学校では、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」、「文部科学省所管事業分野における障害を理由とする差別の解消の推進に関する対応指針」及び「独立行政法人国立高等専門学校機構における障害を理由とする差別の解消の推進に関する対応要領」に則り、障害等による支援ニーズのある学生に対して、受験上又は修学上の合理的配慮の提供を行っています。

入学者選抜において障害等を理由とした合理的配慮の提供を希望する場合は、下記の期日を目安に早めにご相談ください。なお、合理的配慮の提供には準備に時間がかかることもあるため、下記の期日を過ぎてからの相談及び申請では準備期間が短くなり、希望する合理的配慮を受けられず、安心して試験を受けられなくなる可能性があることに注意してください。

必要に応じて、本人、本人の保護者及び在籍する学校関係者に対して、相談された内容について質問する場合がありますが、合理的配慮に関する申請及び問い合わせ内容は入学者選抜の合否判定には一切影響ありません。

入試の公平性を担保するため、合理的配慮提供の根拠となる資料の提出を求める場合があります。必要となる根拠資料に関しては、文部科学省「障害のある学生の修学支援に関する検討会報告（第二次まとめ）」によって示されている、1) 障害者手帳の種別・等級・区分認定、2) 適切な医学的診断基準に基づいた診断書、3) 標準化された心理検査等の結果、4) 専門家の所見、5) 高等専門学校、短期大学等の専攻科入学前の支援状況に関する資料、6) 本人が自らの障害の状況を客観的に把握・分析した説明資料等が該当します。

※ 根拠資料に関しては提出の要不要に関しても入試担当窓口までご相談ください。ご提出いただく根拠資料としての要件を満たしているかどうか、担当係において確認いたします。満たしていない場合は、その理由を明示したうえで再提出を求めることがあります。

(お願い)

入学後に修学上の合理的配慮が必要な場合には、合理的配慮提供のための準備を十分に行うために、出願前の可能な限り早い段階で事前に相談されることをお勧めします。

入試後又は入学後に合理的配慮に関して初めて申請なされると、修学に必要な支援を十分に受けられなくなる可能性があります。

なお、事前に相談されても、入学者選抜の合否判定には一切影響ありません。

相談期日（目安）

学力による選抜【後期】

令和7年10月17日（金）

相談窓口

〒836-8585

福岡県大牟田市東萩尾町150

有明工業高等専門学校 学生課 教務係

Tel : 0944-53-8622 Fax : 0944-53-8862

e-mail : gakkyo-staff@

(迷惑メール対策のため、メールアドレスの末尾 [ml.ariake-nct.ac.jp] を省略しています。)

過去の合理的配慮の具体例

- ・ 検査会場の座席配置の配慮
- ・ 受験上の注意事項を口頭で読み上げるとともに視覚的に表示
- ・ ノイズキャンセリングイヤホンの使用
- ・ 学習タイマーの使用

教育理念と学習・教育到達目標

有明高専では教育理念として「幅広い工学基礎と豊かな教養を基盤に、創造性・多様性・学際性・国際性に富む実践的な高度技術者の育成」を掲げ、5年間の一貫教育を実施しています。

専攻科は、その教育理念に基づく教育基盤の上に、急激に進展する社会に適応できる自己啓発・向上能力を高めるために、実験・実習・演習・研究活動を重視した教育を行い、21世紀を担いうる高度な実践的技術者を育成するため、本科と専攻科を通して以下の学習・教育到達目標を掲げています。

(A) 豊かな教養と国際性

(A-1) 多面的考察力

物事を多面的に考察できること。すなわち、自然科学の素養の修得に加えて、人文・社会科学系科目の修得を通して、豊かな教養や国際感覚を身につけ、自分自身を把握するとともに自国・他国の文化を理解し、それらを基に、物事を多面的に考察できること。

(A-2) 高い倫理観

技術者としての倫理観を確立できること。すなわち、社会系科目や環境関連の科目の修得を通して、一般的な倫理観はもちろんのこと、技術が自然・人間・環境に及ぼす影響を理解し、技術者としての倫理観を身につけ、社会における技術者の責任を自覚できること。

(A-3) コミュニケーション能力

日本語及び外国語によるコミュニケーションを適切にできること。すなわち、発表・討議を伴う科目の修得を通して、日本語による記述・口頭発表・討議を、相手に理解できるように論理的かつ的確にできること。また、語学系科目の修得により、日常生活に必要なレベルの英語等の外国語を理解し、使用できること。

(B) 専門知識と学際性

(B-1) 工学の基礎知識

工学の基礎知識を専門に応用できるまで理解できること。すなわち、自然科学系科目や情報技術及び基礎工学の知識の修得を通して、数学的手法・自然法則や情報技術及び工学の基礎的知識の概念や理論を理解し、論理的思考力を養い、それらの知識や思考力を専門科目に応用できること。

(B-2) 工学の専門知識

工学の専門知識を深く理解できること。すなわち、専門分野の科目の修得を通して、専門分野の知識・技術を将来の仕事で活用できるまで理解できること。さらに、これらの学習において自発的学習方法を身につけ、生涯にわたって自分で新たな知識などを獲得し自主的に継続して学習する習慣を身につけること。

(B-3) 実践力

実験・実習等を確実に実践できること。すなわち、実技系科目（実験・実習・演習等）の修得を通して、実働を計画的かつ確実に実践できること。そこで得られた結果を学んだ知識と関連させて考察でき、それらの記述説明が的確にできること。

(B-4) 工学の学際的知識

工学の学際的知識を専門知識に活用できる程度に習得すること。すなわち、学際的資質育成科目等の修得を通して、複眼的な視野を広げ、異分野の知識・技術を専門知識に活用できるまで理解できること。

(C) 創造性とデザイン能力

(C-1) 課題探究力

現状を進展させるための課題の探求・理解が自らできること。すなわち、特別研究や特別演習・合同演習等の科目の修得を通して、現状を進展させるために創造性を発揮して自ら課題を見つけ、課題の本質を理解できること。

(C-2) 課題解決力

様々な問題に対処できるデザイン能力を習得すること。すなわち、特別研究や特別演習・合同演習等の科目の修得を通して、様々な問題に対して、これまで身につけた多面的考察力・工学の知識・実践力等を総合して活用し、現状での最適な解を見出すことができること。また、研究や作業を計画的に実行し完結させる力を身につけること。さらに、他学科の学生と共同で実働する科目の修得を通して、他分野の人たちとのチームワークを実行できる能力を身につけること。

各専攻共通（ア） 一般科目及び専門基礎科目

授業科目			単位数	学年別配当				備考
				1 年		2 年		
				前期	後期	前期	後期	
一般科目	必修	英語特講	2	2				
		実践英語	2		2			
		必修科目修得単位数計	4	2	2			
	選択科目	国語表現	2		2			
		人文社会科学特論	2		2			
		選択科目開設単位数計	4		4			
	一般科目開設単位数計		8	2	6			
専門基礎科目	選択科目	応用数理Ⅰ	2	2				
		応用数理Ⅱ	2		2			
		総合科学	2		2			
		環境科学特講	2	2				
	専門基礎科目開設単位数計		8	4	4			
一般科目及び専門基礎科目開設単位数計			16	6	10			

※ 上記の授業科目以外に他の高等教育機関で修得した単位については、専攻科委員会で審議の上、認め

専門科目（イ） 生産情報システム工学専攻

授業科目			単位数	学年別配当				備考	
				1 年		2 年			
				前期	後期	前期	後期		
専門科目	必修科目	生産情報システム特別研究Ⅰ	6	3	3				
		生産情報システム特別研究Ⅱ	6			3	3		
		生産情報システム技術英語	2	2					
		合同特別実験	1	1					
		生産情報システム特別実験	1		1				
		基礎設計特別演習	2	1	1				
		創造設計特別演習	2			2			
		創造設計合同演習	2		2				
		特別実習Ⅰ	2	2				この科目の単位数は後期に含まれる	
		必修科目修得単位数計	24	7	9	5	3		
	選択科目	基礎工学	工業基礎力学	2		2			E, I系に開講
			材料科学	2				2	M, I系に開講
			実用情報処理	2	2				E, M系に開講
			設備設計	2			2		
			環境調整学	2			2		
			環境工学概論	2			2		
			小 計	12	2	2	6	2	
		複合的・学際的資質育成	機械システム要素	2	2				E, I系に開講
			メカトロニクス概論	2		2			E, I系に開講
			熱力学概論	2			2		I系に開講
			電気機器概論	2				2	M, I系に開講
			情報システム	2	2				E, M系に開講
			情報ネットワーク概論	2				2	E, M系に開講
			材料工学概論	2				2	
			分子生物学	2				2	
			建築生産システム工学	2			2		
			ユニバーサルデザイン	2				2	
			地域協働特論	1	1				この科目の単位数は、※の欄の学年別配当には含まれていない
			地域協働演習Ⅰ	1	1				
			地域協働演習Ⅱ	1	1				
			特別実習Ⅱ	1～6	1～6				
			小 計	24～29	4	2	4	10	※
			深い専門性	エネルギー変換工学概論	2		2		
		応用流体力学		2		2			
		精密加工学		2	2				
		塑性加工学		2			2		
		自動生産システム		2				2	
		機械システム制御		2	2				
		デジタル制御		2			2		
		パルスパワー工学		2				2	
		機能デバイス工学		2			2		
		画像処理工学		2			2		
		パワーエレクトロニクス特論		2	2				
		応用電子回路工学		2				2	
		電子物性工学		2	2				
		システム情報モデル		2		2			
		デジタル回路設計		2			2		
		アルゴリズム論		2	2				
		ソフトウェア開発管理論		2			2		
		応用情報工学		2			2		
		サーキットデザイン		2		2			
		情報通信工学		2				2	
		小 計		40	10	8	14	8	
		選択科目開設単位数計		76～81	16	12	24	20	※
専門科目開設単位数計		100～105	23	21	29	23	※		
一般科目及び専門基礎科目開設単位数計		16	6	10					
開設単位数総計		116～121	29	31	29	23	※		
修得単位数総計		62以上							

専門科目（ウ） 応用物質工学専攻

授業科目			単位数	学年別配当				備考	
				1 年		2 年			
				前期	後期	前期	後期		
専門科目	必修科目	応用物質工学特別研究Ⅰ	6	3	3				
		応用物質工学特別研究Ⅱ	6			3	3		
		応用物質工学技術演習	2	1	1				
		合同特別実験	1	1					
		応用物質工学特別実験Ⅰ	1	1					
		応用物質工学特別実験Ⅱ	1			1			
		創造設計合同演習	2		2				
		応用物質工学特別演習	2	1	1				
		特別実習Ⅰ	2	2				この科目の単位数は後期に含まれる	
		必修科目修得単位数計	23	7	9	4	3		
	選択科目	基礎工学	工業基礎力学	2		2			
			材料科学	2				2	
			実用情報処理	2	2				
			設備設計	2			2		
			環境調整学	2			2		
			環境工学概論	2			2		
			小 計	12	2	2	6	2	
		複合的・学際的資質育成	機械システム要素	2	2				
			熱力学概論	2			2		
			電気電子工学概論	2		2			
			情報システム	2	2				
			サーキットデザイン	2		2			
			情報ネットワーク概論	2				2	
			分子生物学	2				2	
			建築生産システム工学	2			2		
			ユニバーサルデザイン	2				2	
			地域協働特論	1	1			この科目の単位数は、※の欄の学年別配当には含まれていない	
			地域協働演習Ⅰ	1	1				
			地域協働演習Ⅱ	1	1				
		特別実習Ⅱ	1～6	1～6					
			小 計	22～27	4	2	4	6	※
		深い専門性	応用物理化学	2	2				
			無機構造化学	2			2		
			有機合成化学	2	2				
			応用分析化学	2		2			
			無機材料化学	2			2		
			応用化学工学	2			2		
			バイオテクノロジー	2				2	
			環境生物工学	2				2	
			分子構造解析学	2		2			
			小 計	18	4	4	6	4	
		選択科目開設単位数計		52～57	10	8	16	12	※
		専門科目開設単位数計		75～80	17	17	20	15	※
一般科目及び専門基礎科目開設単位数計		16	6	10					
開設単位数総計		91～96	23	27	20	15	※		
修得単位数総計		62以上							

専門科目（エ） 建築学専攻

授業科目			単位数	学年別配当				備考	
				1 年		2 年			
				前期	後期	前期	後期		
専門科目	必修科目	建築学特別研究Ⅰ	6	3	3				
		建築学特別研究Ⅱ	6			3	3		
		建築学技術英語	2	2					
		合同特別実験	1	1					
		建築設計特別演習Ⅰ	2	2					
		建築設計特別演習Ⅱ	2			2			
		創造設計合同演習	2		2				
		特別実習Ⅰ	2	2				この科目の単位数は後期に含まれる	
		必修科目修得単位数計	23	8	7	5	3		
	選択科目	基礎工学	材料科学	2				2	
			実用情報処理	2	2				
			環境調整学	2			2		
			環境工学概論	2			2		
			小計	8	2		4	2	
		複合的・学際的資質育成	機械システム要素	2	2				
			熱力学概論	2			2		
			電気電子工学概論	2		2			
			情報システム	2	2				
			サーキットデザイン	2		2			
			情報ネットワーク概論	2				2	
			材料工学概論	2				2	
			分子生物学	2				2	
			建築生産システム工学	2			2		
			地域協働演習Ⅰ	1	1			この科目の単位数は、※の欄の学年別配当には含まれていない	
			地域協働演習Ⅱ	1	1				
			特別実習Ⅱ	1～6	1～6				
			小計	22～27	4	2	4	6	※
			深い専門性	建築防災システム工学	2		2		
		居住地計画論		2	2				
		都市・空間デザイン論		2		2			
		都市環境マネジメント論		2			2		
		近代化建築史論		2			2		
		建築保存再生論		2				2	
		構造解析特論		2	2				
		鉄筋コンクリート構造特論		2		2			
		鋼構造特論		2				2	
		建築構造設計論		2			2		
		小計		20	4	6	6	4	
		選択科目開設単位数計		50～55	10	8	14	12	※
		専門科目開設単位数計		73～78	18	15	19	15	※
		一般科目及び専門基礎科目開設単位数計		16	6	10			
		開設単位数総計		89～94	24	25	19	15	※
		修得単位数総計		62以上					

学位の取得

本校専攻科を修了し、一定の条件を満たした者については、大学改革支援・学位授与機構が定める手続きを経て、「学士」の学位を取得できます。

修了生の進路(令和7年3月)

【生産情報システム工学専攻】

NEC ネットエスアイ(株)、(株)NTT データグループ、
ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング(株)、(株)トッパン・テクニカル・デザインセンター、
西日本電信電話(株)、(株)安川電機、(株)ラック
九州大学大学院、九州工業大学大学院、佐賀大学大学院、宮崎大学大学院、
東北大学大学院

【応用物質工学専攻】

ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング(株)
九州大学大学院、東京科学大学大学院

【建築学専攻】

九州旅客鉄道(株)、(株)構造 FACTORY、(株)竹中工務店、日本 ERI(株)、(株)LIXIL、
福岡市役所
鹿児島大学大学院

入学手続き時に要する諸経費

- 入学料 納付金額 84,600 円(予定額)
 - 教科書等 25,000 円～50,000 円程度
- 注)授業料については、入学後に銀行口座から自動引き落としとなります。
授業料は次のとおり予定されています。
年額 234,600 円 (前期分 117,300 円、後期分 117,300 円)

高等教育の「修学支援新制度」

住民税非課税世帯及びそれに準じる世帯の日本人学生を対象に、日本学生支援機構の給付奨学金に加え、入学料及び授業料の減免による支援が実施されます。

入学料免除・徴収猶予制度

入学前1年以内において、入学する者の学資を主として負担している者(学資負担者)が死亡した場合、又は入学する者もしくは学資負担者が風水害等の災害を受けた場合など、特別な事情により入学料の納付が著しく困難であると認められる者には、申請に基づき選考のうえ、入学料の全額又は半額を免除し、あるいは、その徴収を猶予することがあります。

授業料免除制度

授業料の各期の納付期限前6月以内において学資負担者が死亡した場合、又は風水害等による災害を受け納付困難と認められる者には、申請に基づき選考のうえ、授業料の全額又は半額を免除することがあります。

奨学金制度 (日本学生支援機構の奨学金を例に挙げていますが、他にも様々な奨学金があります。)

人物・学業成績ともに優れ、かつ、経済的理由により就学が困難な学生に対し、申請に基づき選考のうえ学資を貸与する制度があり、その区分と貸与月額(令和7年度日本学生支援機構)は次のとおりです。

【第一種奨学金】

自宅月額	自宅外月額
20,000 円・30,000 円・45,000 円	20,000 円・30,000 円・40,000 円・51,000 円

【第二種奨学金】

月 額
20,000 円～120,000 円(10,000 円刻みで選択)

学生寮

男子寮、女子寮があります。寮費は食費を含め月額約 45,000 円です。寄宿料は、月額 800 円です。なお、入寮希望者が収容人員を超える場合は、本科生を優先し入寮選考を行います。疾病その他の理由により寮での共同生活に適さないと認められる場合は、入寮できないこともあります。

入学検定料をゆうちょ銀行から振り込む場合の注意点

入学検定料はゆうちょ銀行からも振り込むことができますが、以下の条件を満たす必要がありますので、ご注意ください。

- 1) ゆうちょ銀行から他の金融機関への振込は口座からのみ可能で、現金による振込は出来ません。ご利用の際は、『通帳とお届け印』または『キャッシュカード』が必要です。
- 2) ゆうちょ銀行から他の金融機関への振込は募集要項に添付されている振込依頼書を使用することは出来ません。窓口で「ゆうちょ銀行専用の振込依頼書（以下参照）」を受け取り、記入いただく必要があります。
- 3) 振込後は「振込依頼書（兼振替払出請求書）【お客さま控】（以下参照）」を受領してください。

※ゆうちょ銀行専用の振込依頼書(サンプル)

※振込依頼書(兼振替払出請求書)【お客さま控】(サンプル)

振込依頼書(兼振替払出請求書) [電信扱い]

「ゆうちょ銀行」以外の銀行発行

※太枠からはみ出さないようにボールペンではっきりとご記入ください。 ※□枠横は、該当の項目にレ印をつけてください。

▲ 組合口座の場合は通帳に記載のある方のみご記入ください。

ご依頼日 年 月 日

※料金は、振込金とは別に、払出口座の預り金からいただきます。
※お受取人負担のお取扱いはできません。

お支払 欄	金融機関名	☐ 銀行 ☐ 信託 ☐ 信用 ☐ 農協 ☐ その他	支店名	支店
	預金種目	☐ 1 普通貯蓄 ☐ 2 当座 ☐ 4 貯蓄 ☐ 9 その他 ()	口座番号	金額
	フリガナ			
おなまえ	様			
※ 金額の横線に「V」を記入してください。				
振込金額		5万円未満	5万円以上	
料金(消費税込)		648円	864円	

おところ	郵便番号 (-)	
フリガナ		
おなまえ	様	
日中ご連絡先電話番号	通知番号	
※ お受取り人に通知を希望される番号(最大10桁)がある場合は(お名前の前)に数字を入れる場合に左端までご記入ください。		
払出口座番号	記号 ▲ 番号(左詰めでご記入ください)	お振付印
郵便番号 (-) ※口座名義人がご依頼人の場合、ご記入是不要です。		
払出口座名義人(代理人)	おなまえ	

科目	取引年月日	取扱時間	支払額
	取組店番号	処理滞数	代行店番号
請求種類		指示元	
		お受取人 おなまえ	様
払出口座番号		払出口座 おなまえ	様
		ご住所	

振込金額	円	通知料金	円	(消費税を含む。)
合計金額	円	払出明細番号		

ご利用にあたって

☒	☐	本・代・使 ()	本・代・法 ()	特	特	特	特	特
電	電	確	任・顧	費	送	送	送	送
カ	ー	理	時	金	金	金	金	金

【印刷】 QCR用

(有効期満後、有効期限・有効開始日時等センターへ)

F66600(2/7)FF

JCB ゆうちょ銀行

振込依頼書(兼振替払出請求書)【電信扱い】

「ゆうちょ銀行」以外の銀行様

ご依頼日 年 月 日

※料金は、振込金とは別に、払出口座の預り金からいただきます。
※お受取人負担のお取扱いはできません。

金融機関名	☐ 銀行	☐ 信用金庫	支店名	支店
	☐ 農協	☐ その他		
お受取人	☒ 1 普通 通帳 ☐ 4 貯蓄 定期 ☐ 2 当座 ☐ 9 その他	口座番号	金額	
	フリガナ			
おなまえ	様			

おところ	郵便番号 (-)	
フリガナ		
おなまえ	様	
ご依頼人	日中ご連絡先電話番号	通知番号
	※お受取人に連絡を希望される番号(最大10桁)がある場合 (お札の裏に数字を入れる場合に有効)をご記入ください。	
払出口座番号	記号	番号
払出口座番主(代理人)	おところ	おなまえ
	郵便番号 (-)	様

科目	振込年月日	振込時間	支払口座
	振込口座番号	伝送番号	代行店番号
請求額	お受取人おなまえ		
払出口座番号	払出口座番主		
	ご住所		

様
様

振込金額
合計金額

円 振込料金
円 払出店手数料

円 (消費税を含む。)

ご利用ありがとうございます。

- 1 振込内容に誤りがないかご確認ください。
- 2 この振込依頼書は、本契約の有効となりますので大切に保管してください。
- 3 振込額の元金の残高が「1」の場合は振込口座、「1」の場合は振込口座です。
- 4 振込額は、振込枚数と異なります。

【添付】

（振込用紙）

F46B02027191

EP ゆうちょ銀行